



観光客で犯罪増加？ ～犯罪発生の変因分析～

中京大学 増田ゼミ

山田 健太 丸山 晃司

森田 康暉 中島 涼

概要

- RESEARCH QUESTION

『犯罪発生率は減少傾向にあるが何が影響しているか？』

現状

2012年に内閣府が行った「治安に関する世論調査」では、
過去10年間で日本の治安が「悪くなった」と思う人...81.1%。

理由→「地域社会の連帯意識が希薄となったから」...54.9%

「景気が悪くなったから」...47.4%

現状

不安になる理由(複数回答)では、

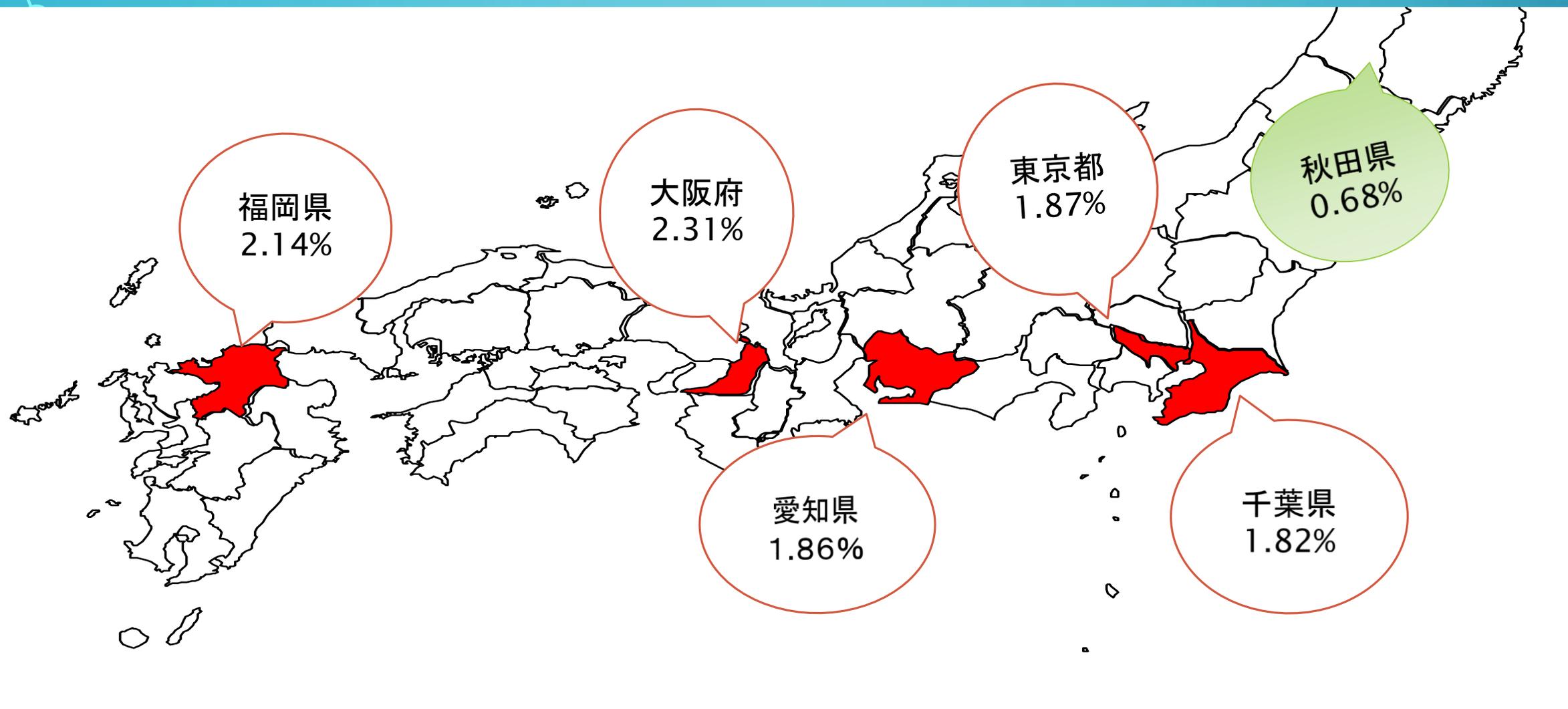
「テレビや新聞で子供が巻き込まれる事件が取り上げられる」...85・9%

「地域のつながりが弱い」...33・2%

「子供が習い事で帰宅が遅い」...31・1%

(読売新聞2006年8月4日)

平均犯罪発生率TOP5(1989年~2015年)



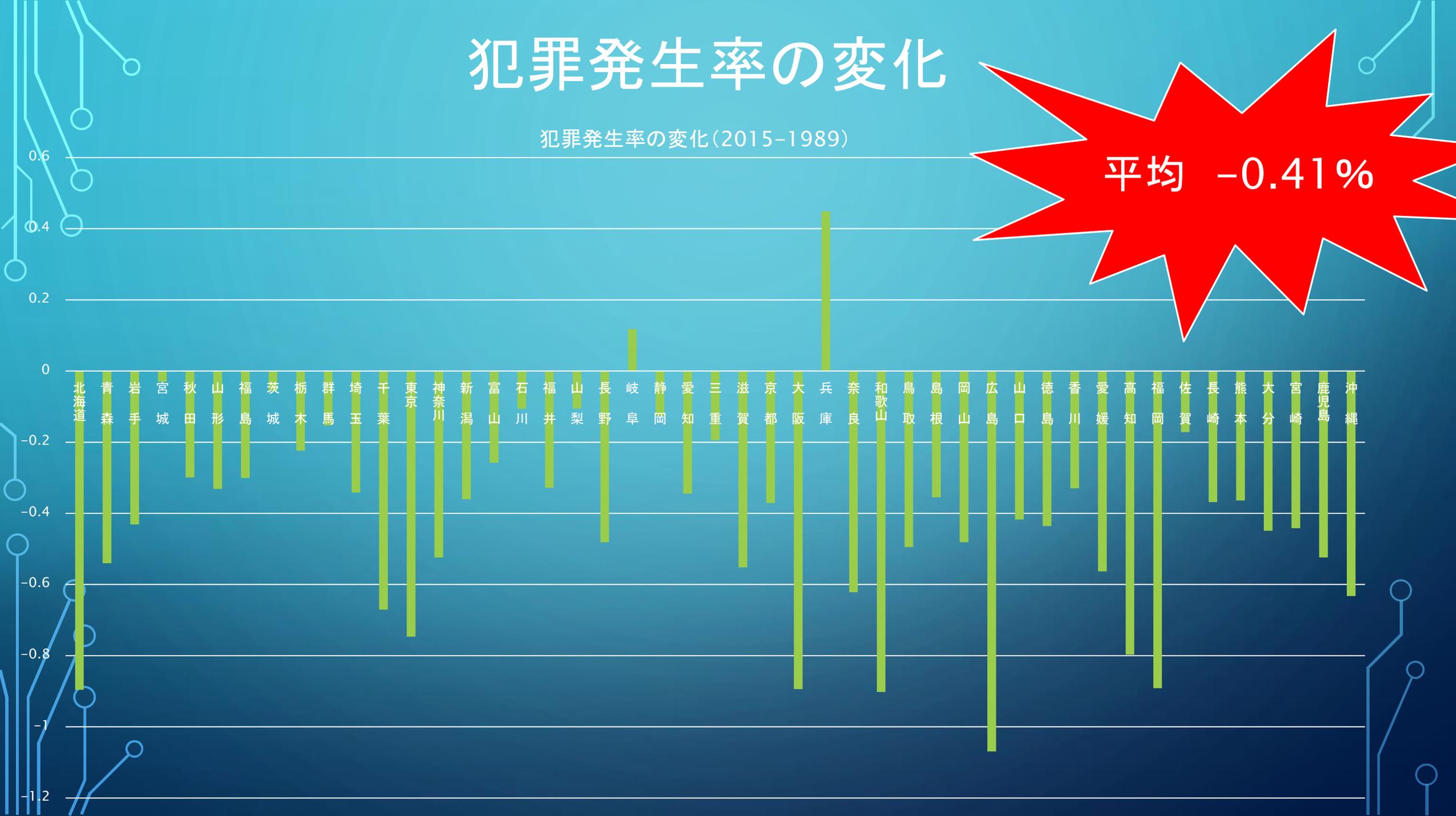
今年の代表的な事件

- 千葉小3女児殺害事件(千葉県松戸市)...3/24
- 神戸5人殺傷事件(兵庫県神戸市北区)...7/16
- 日立市母子6人殺人放火事件(茨城県日立市)...10/6
- 座間9遺体事件(神奈川県座間市)...10/30

犯罪発生率の変化

犯罪発生率の変化(2015-1989)

平均 -0.41%



先行研究

- 少年犯罪と労働市場

大竹文雄 & 岡村和明(2000)

概要→少年犯罪の発生率に影響を与える変数と影響を分析

先行研究

- 日本における犯罪率と所得との関係

セミ・パラメトリック分析による犯罪クズネッツ曲線の検証

功刀祐之 岩田和之(2016)

概要→日本における犯罪率と地域の所得水準との間に逆U字の関係があるかどうかをセミ・パラメトリックな推定方法によって分析

影響がありそうな変数予想

失業率

県民所得

宿泊客数

人口密度

警察官数

ある程度の期間と都道府県別のデータを
集められることが出来た三つデータを採用

研究方法

重回帰分析を用いて検証

目的変数 犯罪発生率(犯罪認知率)

説明変数 完全失業率

一人当たり県民所得

一人当たりの宿泊客

都道府県ダミー(愛知県を基準)



最新のデータを使用



先行研究に無い分析

データの概要

- データ: 犯罪認知件数
- 県民所得
- 宿泊客数
- 完全失業率
- 人口

* 都道府県パネルデータを使用

全ての変数に当てはまる期間
2007～2014年のデータを使用

重回帰分析とは

被説明変数(犯罪発生率)が複数の数値データ(完全失業率、一人当たり県民所得、一人当たり宿泊客)に相関があるのかを調べ、どのような関係が有るのかを調べる方法

→相関関係が分かれば片方のデータからもう一方のデータをある程度推測することができる

重回帰分析 例

被説明変数: Y

説明変数	係数	T値	P-値
説明変数X ₁	B1	+4.0	0.001
説明変数X ₂	B2	+4.0	0.001

$$Y = B_1 X_1 + B_2 X_2$$

ダミー変数とは

もともと数値ではないデータに対して

1(そうである)か0(そうでない)かを用いて数量化した変数

回帰分析の結果

被説明変数: 犯罪発生率

説明変数	係数	T値	P-値
一人当たり県民所得	0.162	1.103	0.271
一人当たり宿泊客	-0.622	-24.702	0.000
完全失業率	0.014	1.302	0.194

研究結果1

県民一人当たりの宿泊客↓ ≠ 犯罪発生率↑

完全失業率↑

一人当たり県民所得↓

再度回帰分析

回帰分析の結果(宿泊客抜き)

被説明変数: 犯罪発生率

	係数	T値	P-値
一人当たり県民所得	-0.681	-2.824	0.005
完全失業率	0.061	3.392	0.001

研究結果2 所得と失業率

- 犯罪発生率↑ = 完全失業率↑
- 犯罪発生率↑ = 一人当たり県民所得↓

まとめ

犯罪が減少すると宿泊率が増加傾向

完全失業率が減少傾向ならば犯罪も減少へ

一人当たり県民所得が増加傾向ならば犯罪は減少へ

今後の課題

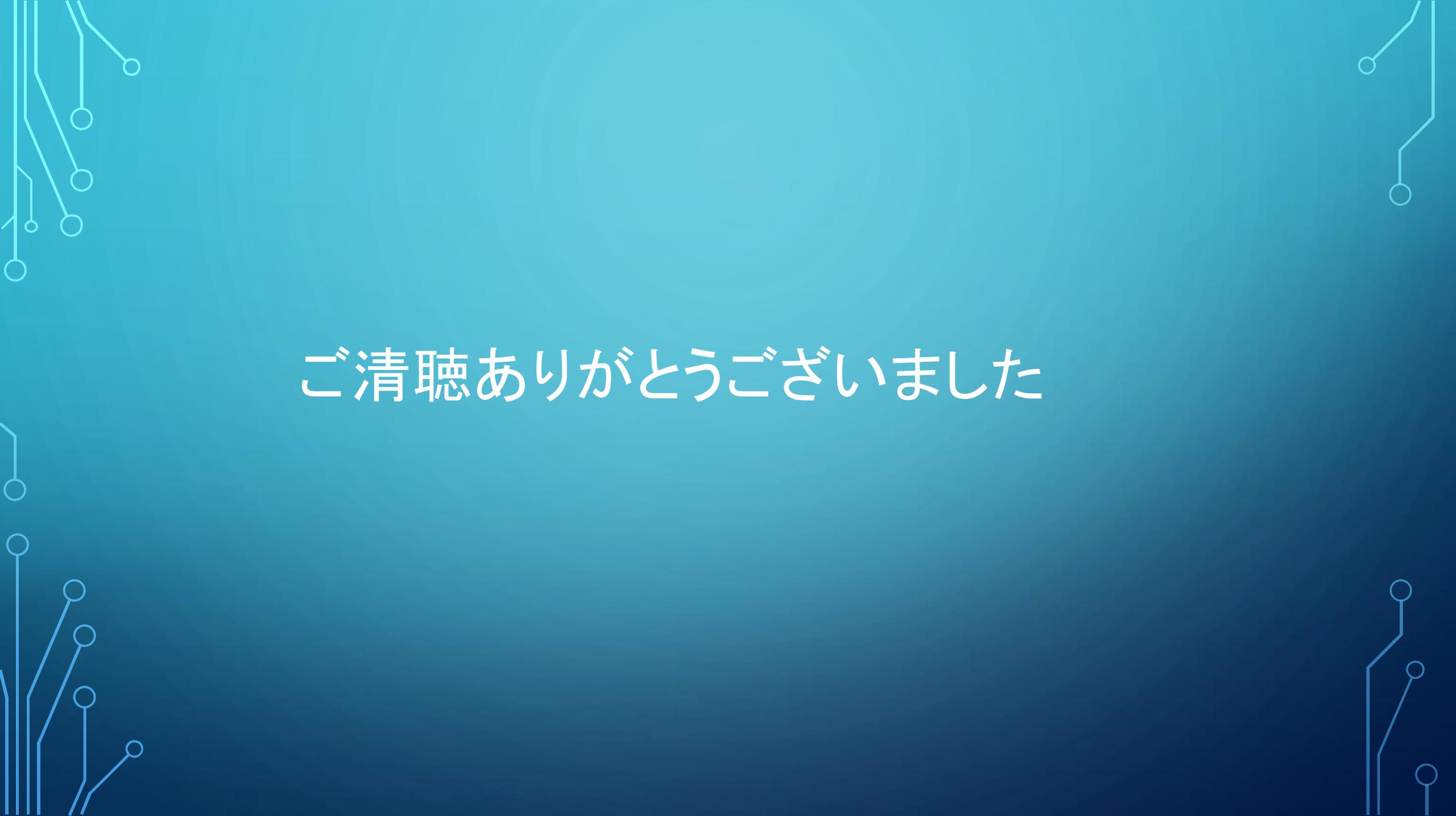
- 影響がありそうな説明変数が少なかったのでデータ収集に今後は研究時間を多くとりたい。
- 一人当たり県民所得が増加傾向ならば犯罪は減少するという先行研究と異なる結果が出たが、先行研究では二次項を取り入れていたので、私たちも今後二次項を取り入れていきたい。

参考文献

- 大竹文雄・岡村和明(2000)「少年犯罪と労働市場：時系列および都道府県別パネル分析+」(『日本経済研究』No.40、2000年3月、40-65頁掲載)
- 功刀祐之・岩田和之(2016)「日本における犯罪率と所得との関係セミ・パラメトリック分析による犯罪クズネッツ曲線の検証」(『地域政策研究』(高崎経済大学地域政策学会)第18巻 第2・3合併号 87頁~95頁)

参考文献

- 警察庁 (<https://www.npa.go.jp/>)
- 内閣府 (<http://www.cao.go.jp/>)
- 国土交通省 観光庁
(<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shukuhakutoukei.html>)
- 総務省統計局 (<http://www.stat.go.jp/data/roudou/2.htm>)

The background is a dark blue gradient. In the corners, there are decorative white lines resembling a circuit board or network diagram, with small circles at the end of the lines.

ご清聴ありがとうございました